

沖縄観光における新たな目標フレームについて

説明内容

1. 現行の目標フレーム
2. 目標値の算出の検討方法
3. 入域観光客数について
4. 観光収入について
5. その他目標値について

第5次沖縄県観光振興基本計画における沖縄観光の目標フレーム

現在の目標フレーム(平成33年度達成目標)

(1)観光収入:1兆円

(2)観光客一人当たり県内消費額:10万円

(3)平均滞在日数:5日

(4)人泊数:4,027万人泊

(うち国内客3,152万人泊、外国空路客875万人泊)

(5)入域観光客総数:1,000万人

(うち国内客800万人、外国客200万人)

1. 新たな沖縄観光の目標フレームの考え方について

(1) 観光客数の目標値の考え方

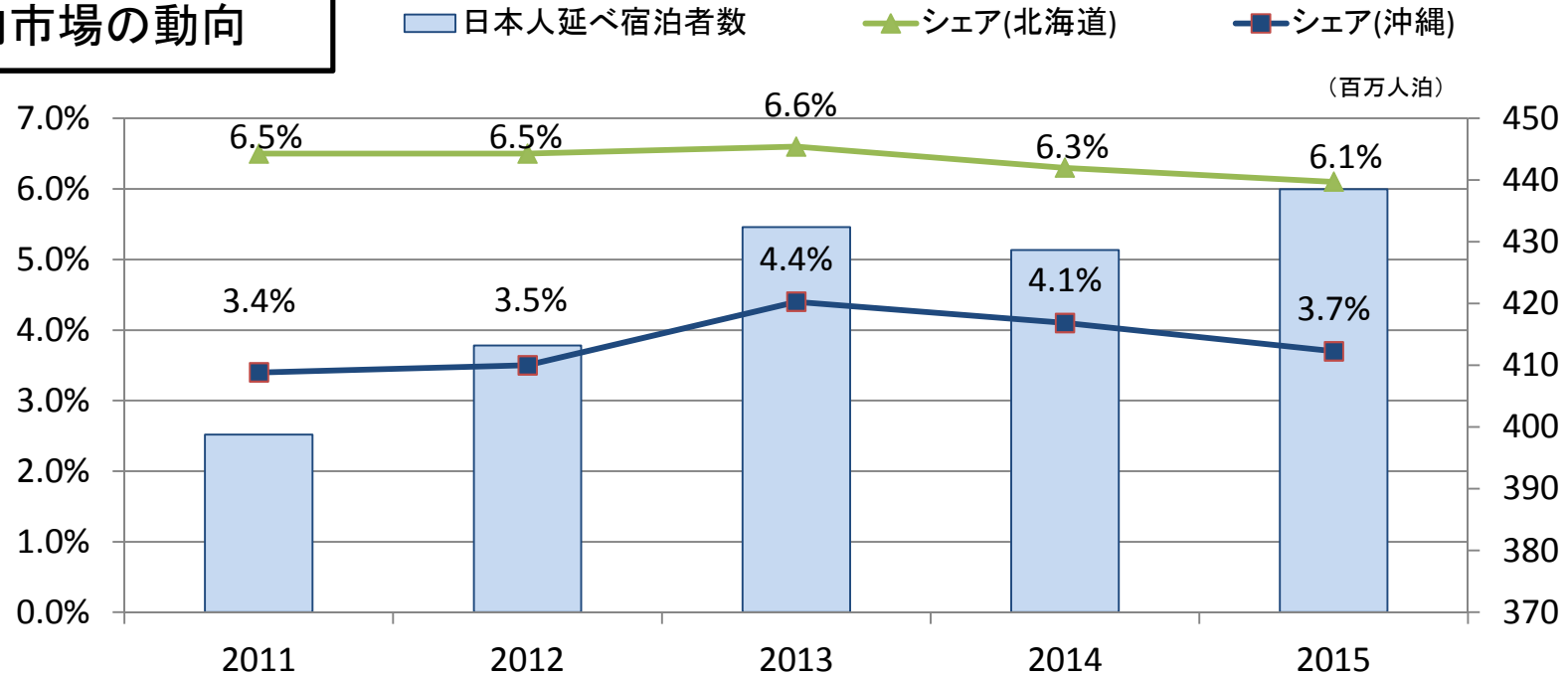
- ① 需要量推計(国内外から沖縄への旅行ニーズの把握)
- ② 供給量推計(航空便座席数、クルーズ定員、宿泊施設等)
- ③ 上記の需要と供給の推計を踏まえ、観光客数目標値を設定

(2) 観光収入額の目標値の考え方

- ① (1)により推計した観光客数の目標値
- ② 一人あたり観光消費額目標値の設定(直近の伸び率等により算出)
- ③ 観光収入目標値の設定(①×②)

沖縄観光に対する需要量(国内)

国内市場の動向



※出展 「宿泊旅行統計調査」(観光庁)により事務局にて作成

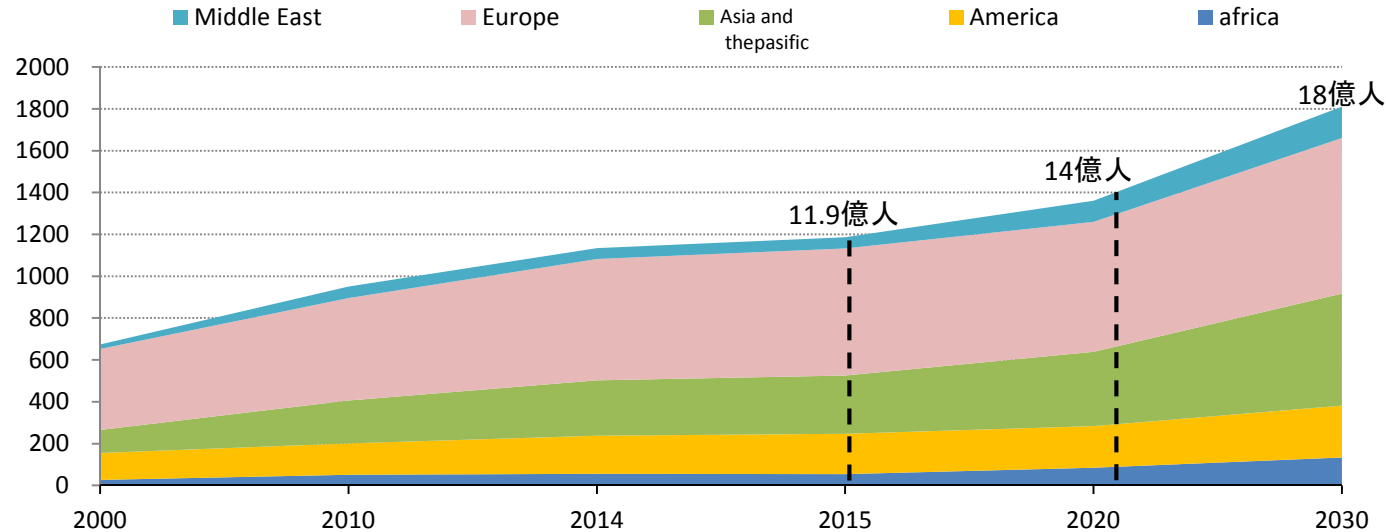
○上記グラフは、直近の国内の延べ宿泊者数の推移並びにシェアを示しているが、近年は宿泊旅行市場の動向にかかわらず3.4%~4.4%で推移している。

また、日本人の海外旅行市場としては、近年、右肩下がりではあるものの1600万人を超えており、沖縄県の更なる観光施策の展開により、当該市場から沖縄観光市場への誘引も可能と思われる。

なお、平成23年度(2011年度)に523万人であった国内入域観光客数は、平成28年度(2017)の国内観光客については、660万人を見込んでおり、5年間で137万人以上(増加率26%増)となる。

沖縄観光に対する需要量(海外)

海外旅行市場の動向



※出展 UNWTOのデータにより事務局にて作成

○「UNWTO2030長期予測」では、世界全体の国際観光客到着数は、2010年台には、年平均3.3%増加、2020年代には2.9%増で推移すると見込んでおり、2020年までに14億人、2030年までに18億人に達すると予測している。

○とりわけ、アジア太平洋地域が最も成長すると予測しており、当該地域では、2015年の2.8億人から2020年3.6億人、2030年5.4億人(年4.9%増)に達すると見込んでいる。

また、政府においても訪日外国人観光客の目標数を、2020年 4千万人、2030年 6千万人に設定するなど、沖縄を取り巻く国際観光市場における旅行ニーズは、相当程度、有すると考えられる。

沖縄観光の供給量(1)

(1)－①. 航空機市場の動向(アジア市場)

○一財)日本航空機開発協会「民間航空機に関する市場予測2016-2035」によれば、アジア太平洋地域においては、2015年時点で6,034機が運航されている。

旅客需要の高い伸びを背景に2035年には、15,370機に増加する見込み。

○また、同予測によれば、今後20年間の航空機の需要の中心は、4～5時間の中間距離を主に運航している「小型機」であるとされている。

(1)－②航空機市場の動向(国内航空会社)

○国内航空会社FSC並びにLCCともに、国内路線に係る機材の主軸は、「小型機」を中心とする機材であるが、従来機より提供座席数が増となる機体が調達の主軸となる。

さらに、機材運用が多様なFSCにおいては季節や曜日の需要変動に対応した機材運用がさらに進むと考えられる。

沖縄観光の供給量(2) 周辺空港の整備状況

(2) - (1) アジア周辺における空港の開発計画

○アジアの主要空港においては、2017年～2021年にかけて、大規模な施設整備が予定されている。これに伴い、空港の処理能力が大幅に増加する計画である。



沖縄観光の供給量(2) 国内主要空港の整備状況

(2)－(2)国内空港を取り巻く状況

○現状として、沖縄県が目標の最終年度とする平成33年度までの間に、予定されている空港の整備は以下のとおり。

- ・関西国際空港：LCC専用ターミナルの整備（国際線専用ターミナルの整備に伴い、既存ターミナルが国内線専用となる）（平成29年1月）
- ・中部国際空港：5スポットの増設（平成28年度末）

（参考）福岡空港第2滑走路整備並びにターミナル：平成37年3月

羽田空港第5滑走路整備の検討：平成42年

○羽田空港については、現在、都心上空の飛行を一定程度、可能とすることで発着枠の拡充を図ることを検討。（ただし、現状としては国際線への配分を前提に検討）

○空港の民営化については、平成28年7月の仙台空港をはじめとして地方空港においても動き始めている。今後、高松空港や新千歳空港、福岡空港などにおいても、検討されている。

仙台空港については、民営化と併せて、LCC航空会社拠点化を進めるなど、地域を挙げての空港の活性化が期待できる。

沖縄観光の供給量(3) 県内空港の整備状況

(2)－(3)那覇空港の整備について

○ 那覇空港においては、平成31年度末の供用開始に向け、第2滑走路の整備を進めており、工事は順調に進捗している。

第2滑走路の整備により滑走路処理能力は、1日当たり380回、年間13.9万回から1日あたり500回、年間18.5万回程度に向上する見込みである。

また、那覇空港においては、国内線ターミナルと国際線ターミナルを連結させ、乗降客数2,150万人まで対応なターミナルを整備している。

(2)－(4)主要離島空港の整備について

○ 新石垣空港においては、国際線ターミナルビルの増改築に合わせ、エプロンの拡張を計画しており、平成31年度の供用開始を予定している。

これにより中型機の国際線対応が可能となる。

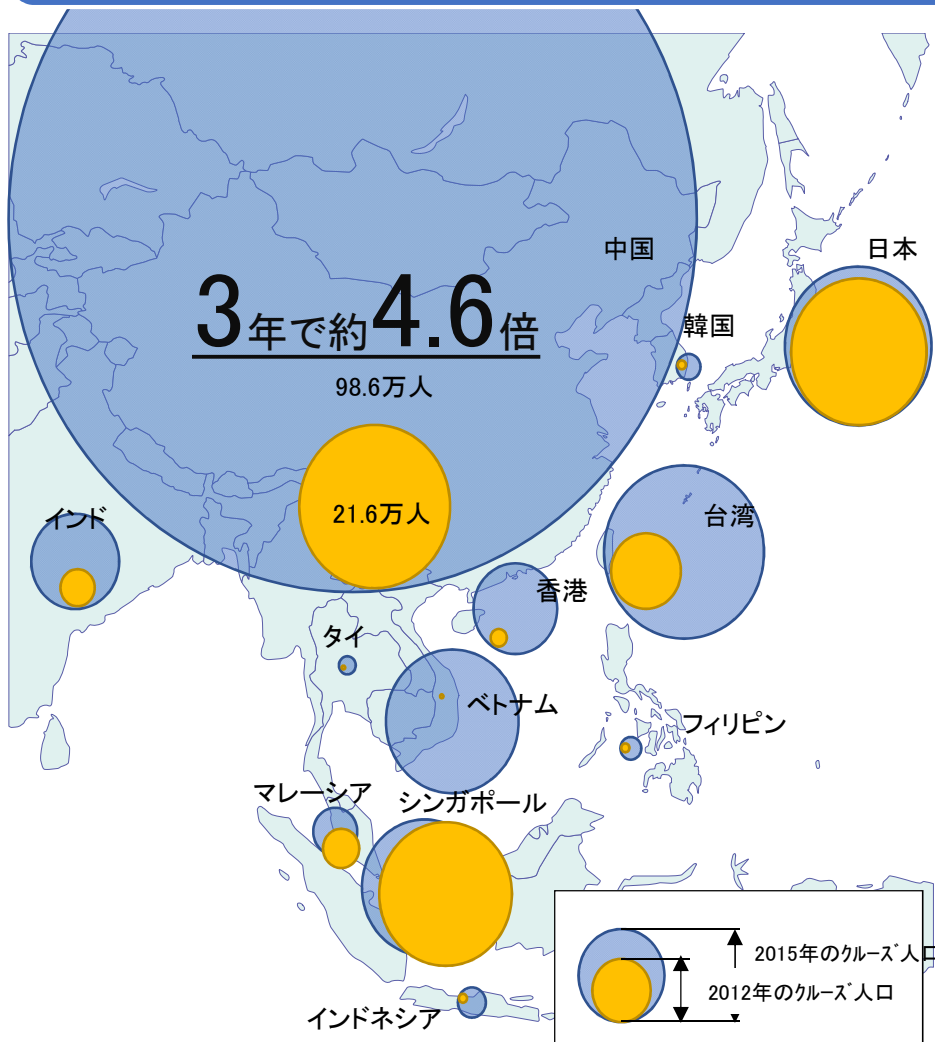
○宮古圏域空港(宮古空港・下地島空港)においては、就航機材大型化に対応したエプロンの整備等に取り組む予定。(平成31年度)

下地島空港については、アジアを中心とする海外富裕層の獲得を目指し、プライベートジェット、小型機等の駐機場として利活用に取り組む予定。(平成30年度)



将来の主要国のクルーズ人口の見通しに対する訪沖率（沖縄への訪問率）をもとに推計（特に中国に着目）

アジアのクルーズ市場が拡大し、**2015年の中国のクルーズ人口は2012年の約4.6倍、台湾は2.2倍**となっている。主要な船社幹部によれば、**2020年の中国のクルーズ人口は400~500万人まで拡大**するという見通しもある。



出所) Chief Executive

2020年の中国人クルーズ人口500万人という成長見通しを信じています。中国におけるクルーズ産業が成長し続けるということは明らかです。(Adam Goldstein, president and COO of Royal Caribbean Cruises / Cruise Industry News 14 OCTOBER 2015)



出所) Chief Executive

いずれは世界最大のクルーズ市場になるだろう中国市場は、**2020年までの5年間で年間クルーズ人口が400万人以上に上る可能性**があります。(Alan Buckelew, COO, Carnival Corporation / P24, Cruise Industry News Quarterly Fall 2015)



出所) Travel Weekly Asia

2020年までにクルーズ人口450万人という見通しに伴い、コスタクルーズは中国で運営している西洋ブランドで最高なポジションにあるかもしれません。(Buhdy Bok, president of Costa Asia / Cruise Industry News 13 OCTOBER 2015)

2. 観光客数の目標値の検討

以下、入域観光客数の新目標値を整理すると以下の状況

- 国内観光客数は、(現行)800万人⇒(新)800万人(現行と同じ)
- 海外空路客数は、(現行)175万人⇒(新)200万人(25万人増)
- 海外海路客数は、(現行)25万人⇒(新)200万人(175万人増)
⇒外国人全体では、(現行)200万人⇒(新)400万人(200万人増)

		H27年度 実績	H28年度 目標	H33目標 (RM策定時)	新H33目標 (案)	考え方
入域観光客数総数 (A=A1+A2+A3)	万人	794	840	1,000	1,200	—
うち国内客 (A1)	万人	627	640	800	800	那覇空港等の整備状況、国内客実績の推移等を踏まえ設定
外国空路客 (A2)	万人	116	141	175	200	那覇空港等の整備状況、海外新規路線の拡充実績等を踏まえ設定
外国海路客 (A3)	万人	51	59	25	200	那覇港等県内各港湾施設の整備状況、海外クルーズ寄港の拡充実績等を踏まえ設定
外国人合算 (A4=A2+A3)	万人	167	200	200	400	—

3. 観光収入の目標値の検討

国内、外国人空路客については、年平均上昇率の実績値を基に算出。
減少している外国人海路客については、H28年度目標値を継続

沖縄県観光振興基本計画の新目標フレームについて		H27年度実績	割合	新H33目標	割合	
入域観光客数総数 (A=A1+A2+A3)		万人	794	100%	1,200	100%
うち国内客(A1)	万人	627	79%	800	67%	
外国空路客(A2)	万人	116	15%	200	17%	
外国海路客(A3)	万人	51	6%	200	17%	
外国人合算 (A4=A2+A3)	万人	167	21%	400	33%	
観光収入 (B=A*C)		億円	6,022	100%	11,100	100%
うち国内客 (B1=A1*C1)	億円	4,642	77%	7,600	68%	
外国空路客 (B2=A2*C2)	億円	1,248	21%	2,940	26%	
外国海路客 (B3=A3*C3)	億円	132	2%	560	5%	
外国人合算 (B4=A4*C4)	億円	1,380	23%	3,500	32%	
観光客1人あたり消費額 (C=[(A1*C1)+(A2*C2)+(A3*C3)]/A)		円	75,881	-	93,000	-
うち国内客(C1)	円	74,083	-	95,000	-	
外国空路客(C2)	円	107,302	-	147,000	-	
外国海路客(C3)	円	25,973	-	28,000	-	
外国人合算 (C4=[(A2*C2)+(A3*C3)]/A4)	円	82,625	-	88,000	-	

○観光客数
クルーズ客を中心に
200万人増(20%増)

○観光収入
1000億円増(10%増)

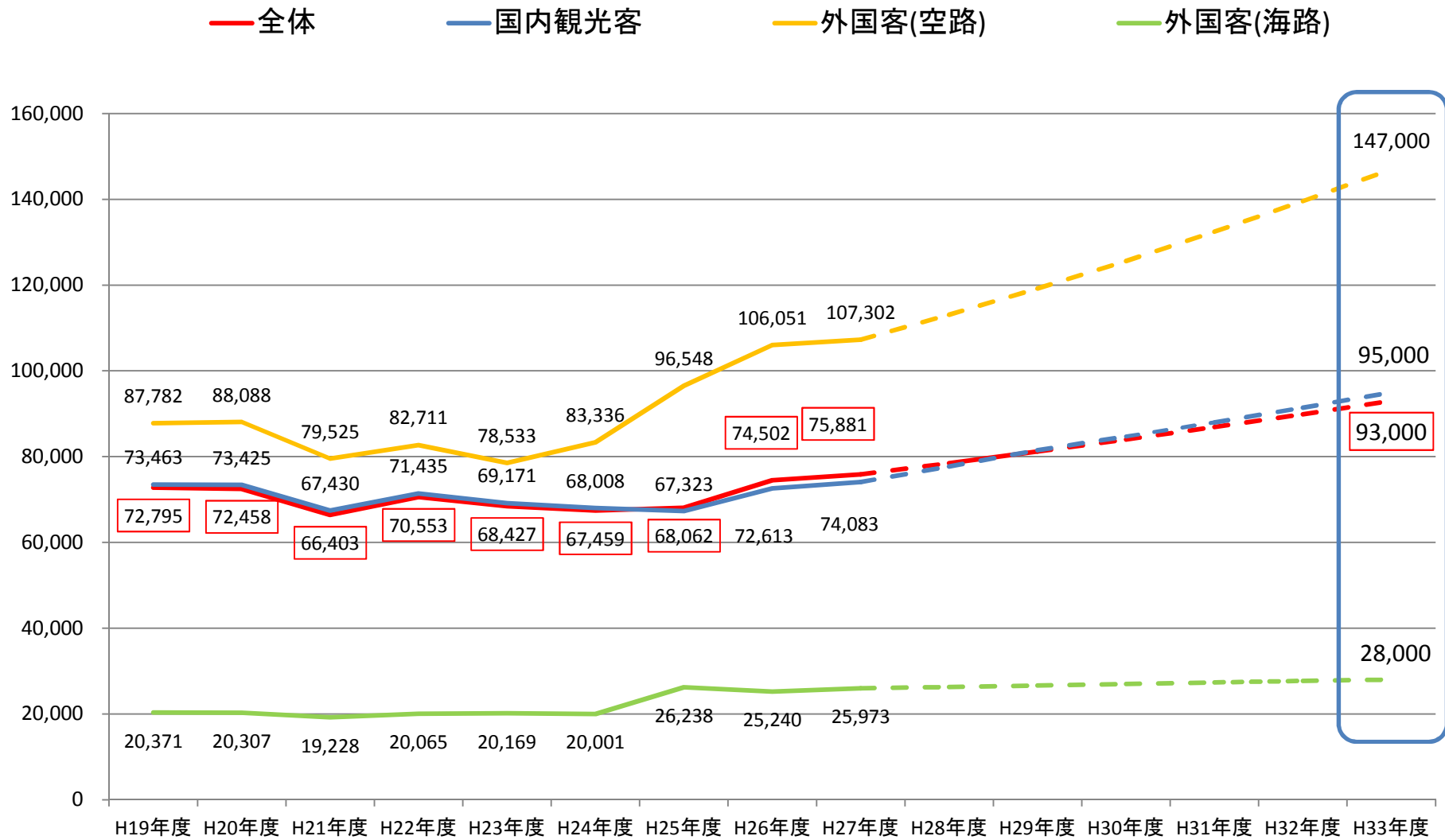
○観光収入の伸び率が、観光客の伸びと比較して低い理由
クルーズは滞在期間が短く、消費額が相対的に低いことが要因
観光客数シェア 17%
↓
観光収入シェア 5%

平均上昇率
4.9%により
算出した額

平均上昇率
5.4%により
算出した額

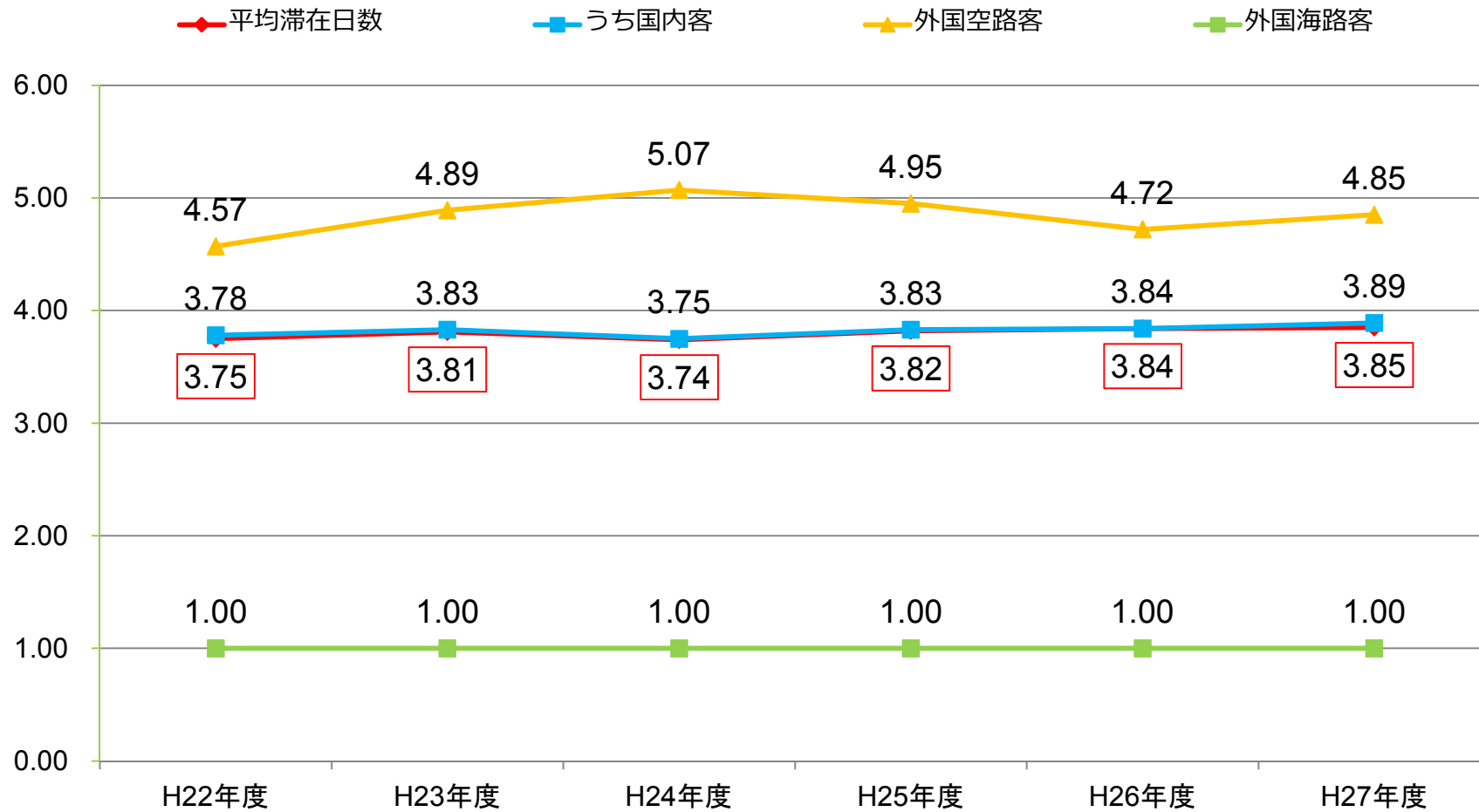
H28年度
目標値
(28,000円)

観光客一人あたりの消費額



平均滞在日数の推移

○ほぼ横ばいで推移している。



4. その他の目標値について(1)

平均滞在日数

○国内観光客 (現状)3.89日⇒(目標)4.94日

○海外空路客 (現状)4.85日⇒(目標)6.00日

現在の目標値を達成できていない⇒(現行)目標値を継続

	単位	H23	H27	(現行)H33	(新)H33
入域観光客数総数	万人	553	794	1,000	1,200
うち国内客数	万人	523	627	800	800
外国空路客数	万人	18	116	175	200
外国海路客数	万人	12	51	25	200
うち外国客数	万人	30	167	200	400
平均滞在日数	日	3.81	3.85	5.00	4.46
うち国内客	日	3.83	3.89	4.94	4.94
外国空路客	日	4.89	4.85	6.00	6.00
外国海路客	日	1.00	1.00	1.00	1.00
人泊数(延べ宿泊者数)	万人泊	1,550	2,259	4,027	4,152
うち国内客	万人泊	1,480	1,812	3,152	3,152
外国空路客	万人泊	70	447	875	1,000
外国海路客	万人泊	0	0	0	0

人泊数

(平均滞在日数－1日)×入域観光客数により算出

第5次沖縄県観光振興基本計画改定(案)における沖縄観光の目標フレーム

	単位	(新) 目標値 (～33年度)	参考(現行) 目標値 (～33年度)
(1) 観光収入	兆円	1.1	1.0
(2) 観光客一人あたり消費額	円	93,000	100,000
国内客	円	95,000	
外国空路客	円	147,000	
(空路客)	円	(105,000)	
外国海路客	円	28,000	
(3) 平均滞在日数	日	4.46	5.00
国内客	日	4.94	
外国空路客	日	6.00	
(空路客)	日	(5.15)	
外国海路客	日	1.00	
(4) 人泊数(延べ宿泊者数)	万人泊	4,152	4,027
うち国内客	万人泊	3,152	3,152
外国空路客	万人泊	1,000	875
(5) 入域観光客数総数	万人	1,200	1,000
国内客	万人	800	800
外国空路客	万人	200	
外国海路客	万人	200	
うち外国客数	万人	400	200